
うなづいてくれ

春月桜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
うなづいてくれ

【Nコード】
N1211K

【作者名】
春月桜

【あらすじ】
子供でごめん。
意地はつてごめん。

ありがとう。

その言葉で別れた俺達は別々の道を歩むと思っていた。

「元気でね。」

俺の彼女だった人がそう言った。

「そっちなね。」

俺は驚くこともなくそう言った。

俺の手にはアメリカ行きの飛行機の手ケット。

彼女の頭に自分の手の平を乗せる。

慣れた感触。

俺達は別れたはずだった。

俺がアメリカに行く理由は仕事の関係だった。

四年付き合った彼女。

結婚まで考えていた。

でも、俺と一緒に行くか？と尋ねたら彼女は首を振った。
だから、俺は別れようと言った。

俺はただ子供のように意地を張っていたのだ。
ただ、一緒に行くと言って欲しかったただだったのだろう。
今思うとバカバカしい。

アメリカに住んで6年がたっていた。
もうアメリカには慣れたころだった。
アメリカ人の女性とお付き合いをしていた。
だが、前みたいに満たされる気持ちになかった。
そして、そのアメリカ人と別れた。
そんなときだった。
携帯を見て驚いた。
見るはずもない彼女の名前があったからだ。
メールをあけた。

「もう私のこと忘れちゃった？」

その一言だけだった。
それが何故か笑えた、そして、泣けた。
彼女らしいメールで。
そしてやっぱり君がいい。
そう確信した。

騒がしい空港の中で抱きしめた。
久しぶりで涙があふれ出てきた。

男なのに情けなくてごめんと言ったら、彼女は笑いながら俺の涙を拭いてくれた。

そろそろ君に伝えよう。

「結婚しよう。」

俺がそう言ったとき。

彼女は笑顔で頷いてくれた。

子供でごめん。

意地張ってごめん。

いろんな迷惑かけるけど。

好きだよ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1211k/>

うなづいてくれ

2010年10月23日04時42分発行